

令和 2 年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人宝塚市文化財団	
施 設 名	宝塚市立文化施設ソリオホール（宝塚ソリオホール）	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内定額(総額)	3,643	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人 材 養 成 事 業	0	(千円)
普 及 啓 発 事 業	3,643	(千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	アウトリーチ事業（アーティスト派遣による普及事業）	2年8月7日～12月21日※	新型コロナウイルス感染症の影響により規模縮小、内容変更 人形劇団京芸「ねずみのすもう」 人形劇団クラルテ「しずかなおはなし」 工作ワークショップ 崔 勝貴（サクソフォン） 村上 彩菜（ピアノ） ラッパラソル（金管三重奏） 横沢道治、木村和人（打楽器奏者）	目標値	宝塚市民、市内幼稚園児・小学生 延べ2,430
		阪急宝塚駅オープンスペースほか		実績値	214
2	宝塚こども落語教室／ソリオ夏の落語会	2年7月18日～8月22日※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	教室参加者9、入場予定延べ250
		ソリオホール		実績値	0
3	ライブインソリオ！JAZZ	2年11月19日※	出演：中島教秀（ベース・編曲）、山内詩子（ボーカル）、武井努（サククス）、竹下清志（ピアノ）清水勇博（ドラムス） 曲目：「Smile」、「マック・ザ・ナイフ」、「この素晴らしき世界」など全13曲（アンコール含む） ほか	目標値	延べ240
		ソリオホール		実績値	177
4	宝塚ソリオ寄席	3年2月19日※	新型コロナウイルス感染症の影響により定員半減 出演：桂 ざこば、桂 米團治、桂 雀喜、桂 ちょうば、桂 二豆（米朝一門）	目標値	270
		ソリオホール		実績値	147
5	夏休み子ども向けワークショップ型コンサート	2年7月31日※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	延べ200
		ベガ・ホール		実績値	
6	0歳からのクラシックコンサート～マタニティからおとうさん、おかあさんまで～	2年9月26日※	新型コロナウイルス感染症の影響により内容変更、定員減 出演：福嶋令奈（ヴァイオリン）、須山由梨（ピアノ）、越野保宏（司会・朗読） 曲目：すみれの花咲く頃、トルコ行進曲、主よ人の望みの喜びよ、情熱大陸 ほか	目標値	延べ600
		ベガ・ホール		実績値	372
7	第41回ベガメサイア	2年12月13日※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	350
		ベガ・ホール		実績値	0
8	すみれエコーズによるタカラヅカ・ノスタルジックコンサート・ファミリーコンサート	2年9月20日※	構成・演出：岡田敬二 出演：榛名由梨、瀬戸内美八、風さやか、桐さと実、優ひかり、ほか 司会：未沙のえる ピアノ：佐々木英里奈 新型コロナウイルス感染症の影響により12月公演中止	目標値	延べ640
		ソリオホール		実績値	268

9	宝塚文化創造館ワークショップ（宝塚歌劇の仮面をつくろう／歌劇 OG によるメイク体験）	9 月、10 月※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	延べ 48
		宝塚文化創造館		実績値	0
10	宝塚ベガ音楽コンクール入賞者によるコンサート	11 月 13 日※	出演：加藤文枝（チェロ）小澤佳永（ピアノ）曲目：エルガー／愛の挨拶、バッハ／無伴奏チェロ組曲第 1 番よりプレリュード ほか 新型コロナウイルス感染症の影響により客席制限、1 月公演中止	目標値	延べ 500
		ベガ・ホール		実績値	93

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>宝塚市の文化施設では、阪神・淡路大震災の影響により、市民会館（1,000席）が1997年に閉館して以降、代替ホールの建設には至っていない。多目的ホールである「ソリオホール（300席）」を中心に、音楽専用ホールである「ベガ・ホール（372席）」、宝塚音楽学校旧校舎である「宝塚文化創造館（180席）」の3つの小ホールを活用して事業や市民の利用に供している。</p> <p>ソリオホール（及びベガ・ホール、宝塚文化創造館）を運営するにあたり、市の総合計画及び文化芸術振興基本計画に示される都市将来像実現の為に、中期振興ビジョンを策定している。このビジョンにおいて「アーティスト」と「観客（聴衆）」はもちろんのこと、「アーティスト」と「地域社会」、また「教育」「観光」などさまざまな分野をつなぐ地域のつなぎ手としての役割を積極的に果たすことにより、地域社会に貢献していくことをミッションとして定めている。</p> <p>令和2（2020）年度は既存の文化施設に加えて中心市街地エリアに造形芸術を主眼においた「宝塚市立文化芸術センター」オープン、歴史ある宝塚ホテルが宝塚大劇場に隣接して移転開業するなど、「新たなまちびらき」の年として期待されていたが、世界的に流行している新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、宝塚市内の文化芸術活動も制限を受け、計画段階とは大きく異なる社会情勢となった。兵庫県下においては、令和2年4月10日～5月27日、令和3年1月15日～2月28日までの2度、「緊急事態宣言」が発令された。緊急事態宣言に伴い文化施設も1回目は施設休館、2回目は収容人数の制限や開館時間の短縮などが求められた。</p> <p>以上の状況にあって、当初の計画通り事業を進めることができなかった。小学校は休校等による現場の混乱、ソリオホール階下の百貨店や商店街も休業や時短営業となりストリートピアノの利用開始も遅れるなど、計画実施の環境が整わなかった。しかしながら、ミッションとして掲げている『「地域のつなぎ手」としての役割を果たすことにより、地域社会に貢献する。』を達成するため、関係者との協議を進めながら、コロナ禍においてできることを実施した。ストリートピアノについては、年度内に設置まで終えた。中止となった事業についても、コロナ収束後には再開できるよう準備作業を継続した。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>宝塚市内にある24校の公立小学校において取り組んできたアウトリーチ事業は、将来の宝塚の文化を担う子どもたちに、生の芸術に触れる機会の提供と、地域で活動する実演家の育成、活動機会の確保を目的として実施してきており、助成いただくことで継続実施をできる意義がある。今年度は年度の当初の休校により、いったん開催を見合わせたうえ、8月に小学校校長会を通じて、アウトリーチ事業に対するヒアリングを行い、下半期での計画実行を準備検討した。（下半期の感染拡大により中止）学校においても授業時間確保によるカリキュラム変更、感染対策をおこなったの音楽会等の行事や歌や楽器演奏の実施にハードルがあがり、小規模校では代わりとしての開催を希望する声がある一方で、大規模校では実施そのものに躊躇している状況などわかった。</p> <p>コロナ禍のなかで、にぎわいの創出をとという波及効果を実現することは、はばかられる状況となったが、小康期において、オープンスペース等での活動やホール公演等の実施により、地域での実演家や舞台スタッフの活動の場の維持や文化芸術活動の必要性、継続性を確保することができた。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

令和2年度の目標設定として、例年のアンケート結果に基づき次の4項目を目標として設定した。

(ただし、④経済波及効果については、これまで実施していなかったことから今年度から設定)

①普及啓発事業の公演内容の充実、向上を図る。

イ) 来場者アンケートの「よかった」の割合について82%以上を目指す。

ロ) 来場者アンケートの「良くなかった・無記入」の割合について13%以下を目指す。

②芸術鑑賞を行う人の拡大を図る。

イ) 来場者アンケートの「初めて」の割合について26%以上を目指す。

ロ) 来場者アンケートの「2回目」の割合について12%以上を目指す。

③子ども達に文化芸術鑑賞及び体験機会を提供し、文化芸術への関心を高める。

イ) アウトリーチ事業アンケートで「コンサートに行きたくなくなった」の割合について40%以上を目指す。

ロ) アウトリーチ事業アンケートで「楽器を演奏してみたい」の割合について60%以上を目指す。

④公演活動を通して、まちのにぎわい及び経済波及効果を高める

公演アンケートを実施する際に、交通費、飲食費、グッズ購入費、市内での消費額を調査し、現状を把握する

令和2年度実績は次のとおりである。

①普及啓発事業の公演内容の充実、向上を図る。

イ) 来場者アンケートの「よかった」の割合 90%

ロ) 来場者アンケートの「良くなかった・無記入」の割合 9%

②芸術鑑賞を行う人の拡大を図る。

イ) 来場者アンケートの「初めて」の割合 19%

ロ) 来場者アンケートの「2回目」の割合について25%

③子ども達に文化芸術鑑賞及び体験機会を提供し、文化芸術への関心を高める。

イ) 実績なし ロ) 実績なし

④公演活動を通して、まちのにぎわい及び経済波及効果を高める

飲食ありまたは予定と回答 44%、買い物ありまたは予定と回答 32%

普及型公演での来場者及びアウトリーチ事業実施校での参加者アンケートをもとに目標設定及び効果測定をおこなってきた。令和2年度については、コロナ禍の感染対策として紙による来場者アンケート配布を控え、ウェブフォームによるアンケート回答方式で実施をおこなったところ、アンケート回収数が大幅に低下している。

またアウトリーチ事業については、小学校での実施ができなかった為、実績がない。

① 「公演内容の充実、向上」は達成。

② 「芸術鑑賞を行う人の拡大」は未達成

③ 「子どもたちの文化芸術への関心を高める」は未達成

④ 「公演活動を通じて経済波及効果を高める」は現状把握につとめた。

アンケートの傾向から、コロナ禍の中での来場者は普段から文化芸術活動に関心の高い方が中心となり、新規に来場される方は減少していることがみえる。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

当初計画として、学校への芸術家派遣によるアウトリーチ事業、普及型公演、ワークショップなど、10事業を計画したが、残念ながら10事業のうち、4事業が完全中止、残り6事業についても公演数や内容の変更を行った。

令和2年度中の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響は大きく、宝塚市内の文化芸術活動も制限を受けている。4月10日からの1回目の緊急事態宣言では、施設の臨時休館を余儀なくされ(5月27日まで)、また年が明けた1月15日からの2回目の緊急事態宣言では、収容人数の50%制限、20時までの開館時間の短縮を余儀なくされている。特に年度当初は事業の中止・延期による払い戻し、施設のキャンセル等の対応に追われた。

当財団においても主催・共催事業の実施数は例年の約35%、参加来場者数も例年の27%に留まる。貸館事業においても使用件数は約70%に減少、ソリオホールの利用率は41%と20%を超える減少となっている。特に公演や発表会などの本番利用が大きく減っており、また演劇や合唱、合奏等、集団で実施するものや、発声や飛沫リスクのある活動は大きく制限された。

地域の中核劇場・音楽堂活性化事業において計画していた事業については、参加者募集、練習、公演告知、チケット販売、公演本番などのスケジュールは、例年であれば適切なタイミングであったが、当年度においては環境が整わなかった。実施した事業についても練習期間や公演時の感染状況や利用制限等が予測できない中で、感染対策を行い中止や変更の場合の想定をしながら、事業を行った。

中止変更により、事業規模は約1/3となっており、入場者・参加者数は約1/4となった。

これは、アウトリーチ事業において小学校の派遣が実施できなかったこと、ホールでの普及型公演の実施に際して、観客席を定員の50%としていることによる。ガイドライン見直しにより、クラシックコンサートや古典芸能などは、感染対策を行った上で100%となった時期もあるが、来場自粛や感染拡大時の入場制限強化などを想定すると100%での販売は困難を極めた。事実、2月に実施した宝塚ソリオ寄席においては最大70%での販売を準備したが、2回目の緊急事態宣言により、50%制限また開演時間の繰り上げなどを行っている。

【計画】

(収入) 6,055 千円 (支出) 12,196 千円

(入場者・参加者数) 5,528 人

【実績】

(収入) 2,118 千円 (支出) 4,466 千円)

(入場者・参加者数) 1,271 人

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

市民会館（大ホール）を持たない宝塚市において、ソリオホールを中心とする文化施設群は、地域の文化拠点の中核をなす施設である。そこに従事する文化事業を制作する職員、舞台技術スタッフなどは各事業を通じて、実演家、ボランティア、観客、地域と連携した取り組みを行っている。

音楽専用ホールのベガ・ホールは、パイプオルガンを有し、室内楽や合唱に適したホールである。

ベガ・ホールにおいては、毎年、新進のクラシック演奏家の登竜門である「宝塚ベガ音楽コンクール」、少人数の室内合唱に特化し、合唱による国際交流をおこなう「宝塚国際室内合唱コンクール」などを実施している。

「宝塚ベガ音楽コンクール」は、地域の実演家による「宝塚演奏家連盟」を中心とする「宝塚ベガ音楽コンクール委員会」という委員会組織を有し、その協力のもと運営にあたっている。「宝塚ベガ音楽コンクール入賞者によるコンサート」は、単なるコンクール開催に留まらず、コンクール出身者と地域を結びつけ、実演家の演奏機会やファン作りに取り組んでいる事業であり、これまでの蓄積により開催が可能であり、また実演家の人材育成に貢献する事業である。

宝塚音楽学校の旧校舎であった宝塚文化創造館は、宝塚歌劇 0G 達が学び舎として過ごした場所である。現在、宝塚歌劇団演出家で当財団の副理事長である岡田敬二が名誉館長を務める。宝塚歌劇は 100 年以上の歴史をもち、現在の人気もさることながら、これまでの歴史において、名作・名曲も多い。「タカラヅカ・ノスタルジックコンサート」は、往年のトップスターであった歌劇 0G により、歌劇の名曲を伝え、再評価する企画である。

関西在住の歌劇 0G を中心に、定期的に創造館に集まり「すみれエコーズ」として活動している。

宝塚歌劇の本拠地である宝塚市では、宝塚駅の構内 BGM や発車音、百貨店の館内 BGM などでも歌劇の名曲が流れ、耳なじみのある曲も多い。「タカラヅカ・ノスタルジックコンサート」はこれらの地域資源を活かしていることが大きな特徴である。今年度の計画では、市民オーケストラである「宝塚市交響楽団」によるアンサンブルとの共演での実施を計画していたが、ステージ上の密を避けるという観点、音合わせやオーケストラの練習場所、時間の確保の観点から断念している。

宝塚市の玄関口である JR・阪急宝塚駅前に立地するソリオホールは、市民会館の代替機能を引き受け、上記 2 館での主催公演の企画制作も行っている。レッスンルーム等のカルチャー教室を併設する同施設において、参加型事業の稽古場、落語会やジャズライブ等をおこない、地域の実演家の活動の場として機能するほか、地域のにぎわい創出に貢献している。宝塚こども落語教室、ソリオ夏の落語会は、プロの落語家による指導のもとリレー落語で初舞台に挑む子どもたちと、教室修了後に「宝塚こども落語くらぶ」に参加して活動する子どもたちと好循環が生まれていた。今年度教室中止、くらぶも関係者、配信による「おさらい会」を実施にとどまった。

また公演事業のレセプション業務は、市民ボランティアであるレセプショングループが携わる。

今年度は、感染対策の観点から、ご協力いただく内容や業務について、検討しながらの実施となった。

総じて市民の身近な場所での芸術文化活動を支える事業として取り組んだ。残念ながら令和 2 年度においてはコロナ禍の中で十分な活動ができる状況ではなかった。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

前述のとおり、地域の実演家などとの連携により事業を実施しており、地域の実演芸術等の振興に寄与している。ソリオホールの運営主体である（公財）宝塚市文化財団では、宝塚市内の文化芸術活動への新型コロナウイルスへの影響と、活動の再開するにあたってのニーズや思いを把握することを目的として、1回目の緊急事態宣言が解除される直前の5月後半にウェブによるアンケート調査を実施した。アンケートの回答では、市内の文化芸術活動が休止、縮小を余儀なくされたこと、影響は普段の練習や制作活動、公演活動などいずれにも影響を与えていること、活動再開にあたっての「3密」の回避の難しさ、集客することへの不安や金銭的な不安などをあげられている。活動再開にあたっての支援や情報提供、活動の場の衛生確保などの期待が寄せられた。

実施した事業等においては、感染対策のガイドラインを踏まえた事業運営を行い、また主催事業を前に進めることで、自粛や萎縮を余儀なくされている文化芸術活動を再開するにあたっての環境を整え、また地域の文化芸術を支える役割を果たしたといえる。

「宝塚市内の文化芸術活動へのコロナ禍の影響についてのアンケート調査」

1. アンケート調査の概要

【調査対象】宝塚市内の文化芸術活動を行う個人・団体

【調査方法】ウェブアンケートによる配布・回収

【調査期間】令和2(2020)年5月18日～5月31日まで

【回答数】133件（個人87件、団体46件）

2. アンケートの要約

ほとんどの回答が新型コロナウイルスの感染拡大予防により活動の休止、縮小を余儀なくされている（97%）、影響を受けている活動は、普段の活動（制作活動や稽古）、公演、展示等の発表のいずれにも影響を与えた。活動再開するにあたって不安なこととして、活動再開時の「3密」の回避が難しいことや、感染源となってしまう可能性があること、再開後の第2波や集客することへの不安、会場の定員制限、衛生対策などの金銭的な面も挙げられた。また活動休止が続いたことによる意欲や関心の低下などがあった。

国や自治体への要望事項は活動再開にあたっての資材等の支援（64.1%）、文化団体への活動費の支援（54.2%）、必要な情報の提供（43.5%）

宝塚市文化財団に期待することは、活動再開に向けた支援や情報提供（69.7%）、活動の場の衛生環境の確保（49.2%）

宝塚市内の文化芸術活動へのダメージについて、時間を要するが回復可能（61.7%）、鎮静化すればV字回復（31.6%）と、復興すると思っている

3. 掲載サイト <https://takarazuka-c.jp/topics/entry-846.html>（令和2年6月19日公開）

なお、兵庫県内で初めて文化芸術活動へのコロナ禍の影響を調査しており、8月に実施された兵庫県全体への調査の参考となった。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

ソリオホール、ベガ・ホール、宝塚文化創造館はいずれも小ホール規模の施設であり、当財団ではこれらの施設を一体的かつ施設の特色を活かす形で運営を行っている。

外部からアートマネジメント責任者や芸術監督等を招へいせず、芸術家や企業経営者で構成する文化財団理事会での審議のもと、プロパー職員の中からアートマネジメント責任者、事業担当者を置き、業務を行っている。宝塚文化創造館については、宝塚歌劇団演出家で文化財団副理事長の岡田敬二が名誉館長に就任し、芸術面での企画監修を行っている。また他の事業については、適宜、専門家をつくる運営委員会を設置し、事業の充実と適正化を図っている。

事業の制作体制として、ソリオホールにある事業課を中心に公演制作を行っている。令和2年度より職員の組織内キャリアを目的として事業プロデューサー・ディレクター制をとった。これは中長期的に人材を確保し、また文化財団が地域のつなぎ手として活動を続けていく為に、必要な人材育成及び職場環境整備を行うためである。企画内容の責任権限を明確化することで、企画のクオリティを高めることと、財団職員のキャリアアップにつなげる狙いである。

また今年度はコロナ禍による収益悪化（鑑賞事業収益、利用料収益）を6月段階で最悪の事態を想定、また市からの利用料補填の見込みが厳しいことから、人材流出を回避すべく職員の雇用維持を最優先とし全職員を対象に月3日の休業を実施、雇用調整助成金を活用した。

財務面については、平成29年度から令和元年度にかけて、施設改修のベガ・ホール休館の影響により、施設利用料、入場料収益等が微減傾向であった。一方で友の会組織の会員拡大や公益財団法人の強みを活かし寄付金獲得、読み終えた本やDVDなどの換金額が寄付になる「古本募金」などの整備に取り組み、会費収入や寄付金収入が増加している。これは、小学校等へのアウトリーチ活動など、子どもたちへ向けた取り組みの資金の一部に会費や寄付金が活用されることを明示したことにより、寄付につながったと考える。

令和2年度については、前述のとおり、コロナ禍による施設利用料の減収が著しく、また多くの文化事業を中止や延期としたため、事業規模が例年よりも縮小となった。また助成金、補助金を得ることにより組織維持に努めた。

【各方面とのネットワークや対応】

コロナ禍の中で、事業の内容変更、中止や延期などについて、各事業に関係する文化団体や実演家などと協議を行いながら対応を決定していった。あわせて前述のとおりコロナ禍の影響に関するアンケート調査を実施し、市内文化芸術活動への影響について確認した。この結果はサイトへの公表のほか、市文化政策課へも提供し、再開支援の助成制度等につながっている。また文化施設の以外の市民の文化活動の場である公民館といった市内文化関連施設の指定管理者、近隣市の文化施設や兵庫県文化ホール自主文化事業担当者プロデューサー会議等に参加し、情報交換に務めた。

施設においては、感染対策だけでなく、電子チケット化やLAN環境の整備、オンライン配信などを事業で試行やクラウドファンディングの実施などをおこなった。

これらの対応により、令和2年度は危機的な状況をいったん乗り越えることができ、令和3年度以降の運営を継続する体力を維持した。令和3年度についても、新型コロナウイルス感染症による社会環境が見通せない中ではあるが、あらためて事業再編を行いながら、収束後に地域の文化芸術活動が発展するよう取り組んでいく。